

# 【12-A】下品野連区 社会条件

## 【連区の概要】

下品野連区は瀬戸市の北東部に位置している。連区の南側の市街地を中心にやきものの関連施設が集積している。主要道路としては、国道248号が南北に通過しているほか、品野連区東部と県道33号で結んでいる。

下品野連区



## 【人口および世帯数】

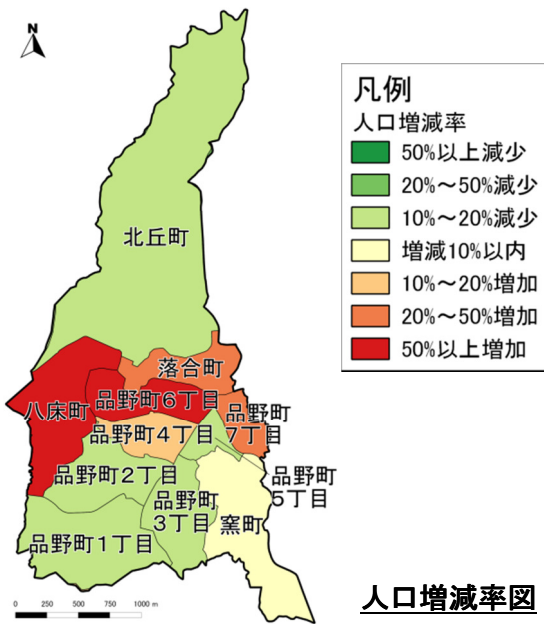
平成12年から平成22年までの10年間で、下品野連区全体の人口は7,463人から7,528人と0.9%増加している。連区中央部の八床町、品野町4丁目・6丁目・7丁目、落合町などでは人口が増加傾向である。連区北部および南部では減少傾向であった。また世帯数は2,399世帯から2,764世帯と15.2%増加している。

下品野連区全体の65歳以上人口比率が24.1%と、瀬戸市全体の23.3%と比べて0.8%高く、連区北部と南部では65歳以上人口比率が比較的高い。

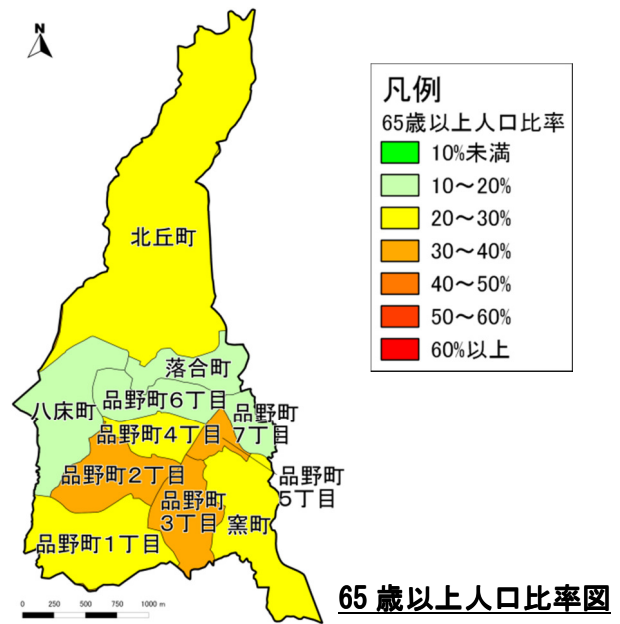
### 階層別人口構成

年代	人口	構成比
0～14歳	1,017人	13.7%
15～64歳	4,637人	62.2%
65歳以上	1,796人	24.1%
区分不明	78人	-
連区内人口	7,528人	

※平成22年国勢調査結果より



人口増減率図



65歳以上人口比率図

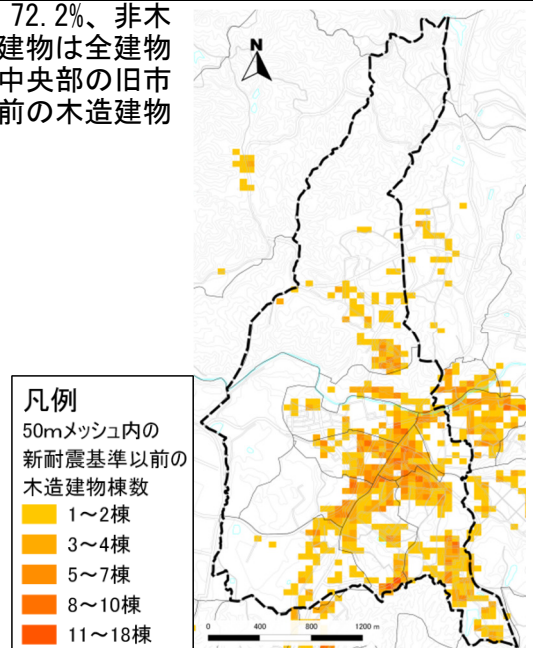
## 【建物】

下品野連区の木造建物および非木造建物の割合は、木造建物72.2%、非木造建物27.8%である。新耐震基準以前（昭和55年以前）の木造建物は全建物の38.2%であり、瀬戸市全体の34.3%に比べて高い。特に連区中央部の旧市街地（品野町2～7丁目の国道248号沿い）は、新耐震基準以前の木造建物が集積している。

### 木造・非木造構成

	建築年	棟数	構成比
木造	S35年以前	637棟	17.1%
	S36～55年	783棟	21.1%
	S56年以降	1,262棟	34.0%
	計	2,682棟	72.2%
非木造	S45年以前	375棟	10.1%
	S46～55年	262棟	7.1%
	S56年以降	397棟	10.7%
	計	1,034棟	27.8%
連区内棟数		3,716棟	100.0%

※平成23年度都市計画基礎調査  
建物利用現況図をもとに集計



新耐震基準以前の木造建物分布図

## 【12-B】下品野連区 水害および土砂災害

- 過去に水害が発生した箇所がある。また、落合町に土砂災害特別警戒区域および土砂災害警戒区域が集中している。
- 連区中央部を除き、風水害時の避難所までの距離が離れている地域が存在する。

### 【水害および土砂災害箇所】

下品野連区では、浸水想定区域については設定されていないが、北丘町と落合町との境界付近、品野町5丁目では平成12年の東海豪雨時に浸水被害が発生している。

また、落合町に土砂災害特別警戒区域（急傾斜地の崩壊／土石流）および土砂災害警戒区域（急傾斜地の崩壊／土石流）が集中している。

その他、土石流危険渓流、急傾斜地崩壊危険箇所が北丘町、落合町、窯町などに分布している。

### 土砂災害警戒区域内にある建物棟数

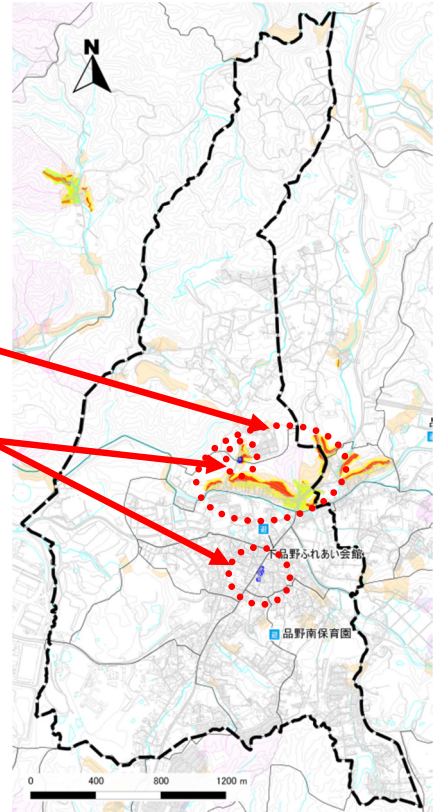
急傾斜地の崩壊	76棟
特別警戒区域	27棟
警戒区域	49棟
土石流	20棟
特別警戒区域	0棟
警戒区域	20棟

落合町では土砂災害特別警戒区域および土砂災害警戒区域が集中する。

北丘町と落合町との境界付近、品野町5丁目では過去に水害が発生している。

凡例

風水害避難所	風水害避難所
土砂災害情報	土砂災害情報
急傾斜地の崩壊(特別警戒区域)	急傾斜地の崩壊(特別警戒区域)
土石流(特別警戒区域)	土石流(特別警戒区域)
急傾斜地の崩壊(警戒区域)	急傾斜地の崩壊(警戒区域)
土石流(警戒区域)	土石流(警戒区域)
土石流危険渓流	土石流危険渓流
土石流危険渓流による危険区域	土石流危険渓流による危険区域
急傾斜地崩壊危険箇所	急傾斜地崩壊危険箇所
地すべり危険箇所	地すべり危険箇所
既往水害(東海豪雨)	既往水害(東海豪雨)



水害・土砂災害危険度図

### 【風水害時の避難所および緊急避難場所】

下品野連区では、下品野ふれあい会館、品野南保育園の2ヶ所が風水害時の避難所・緊急避難場所として指定されている。北丘町、窯町、品野町1丁目、八床町などの一部では、近隣連区の避難所を含めても、避難所までの距離が700m以上離れている。これらの地域では、風水害時の避難所までの距離が離れていることを住民に周知するとともに、早めの避難を促すなど、避難体制を整える必要がある。

### 風水害時の避難所・緊急避難場所一覧

緊急避難場所・避難所	収容定員(目安)		
	長期	初期	直後
品野南保育園	20人	45人	70人
下品野ふれあい会館	40人	75人	125人
品野台地域交流センター【品野連区】	60人	120人	195人

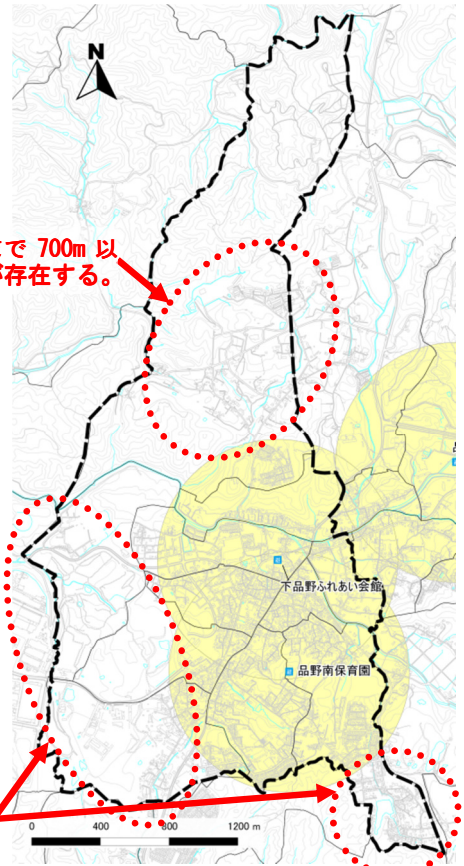
※地域防災計画より

北丘町では避難所まで700m以上離れている地域が存在する。

凡例

避難所・緊急避難場所(風水害)	避難所・緊急避難場所(風水害)
緊急避難場所兼避難所	緊急避難場所兼避難所
避難所等からの対象範囲(同心円)	避難所等からの対象範囲(同心円)
避難所から700mの範囲	避難所から700mの範囲

八床町、品野町1丁目、窯町の一部では避難所まで700m以上離れている地域が存在する。



風水害時の避難所・緊急避難場所の対象範囲図

## 【12-C】下品野連区 地震災害

- 道路幅員の狭い道路が集中している地域がある。また、水野川沿い、紺屋田川沿いで液状化の危険性が高い。
- 連区中央部を除き、地震時の避難所までの距離が離れている。

### 【建物被害および液状化】

#### (1) 建物被害について

耐震性の低い建物が倒壊する危険性がやや高い地域は、連区南部に分布する傾向がある。連区中央部から南部の市街地は幅員の狭い道路が集中しており、地震発生時において倒壊家屋等による道路閉塞や火災延焼の可能性がある。

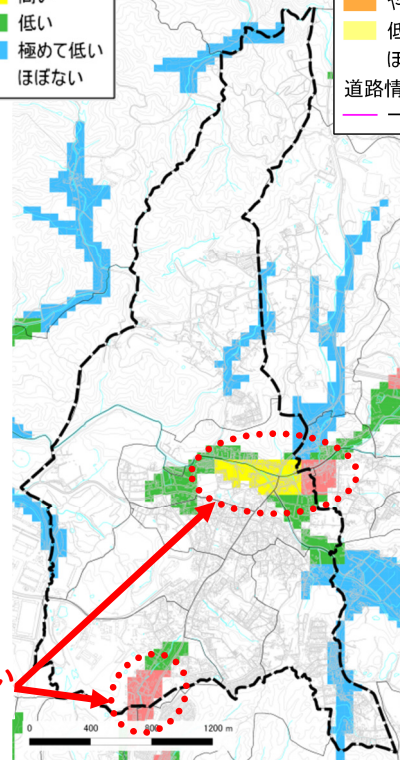
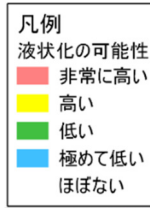
#### (2) 液状化について

液状化の可能性がある地域は、水野川とその支流の鳥原川、瀬戸川の支流の紺屋田川で形成された沖積低地（谷底平野）に分布している。

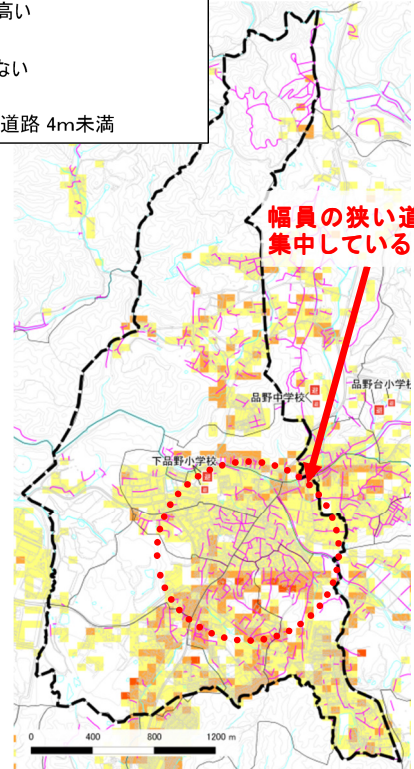
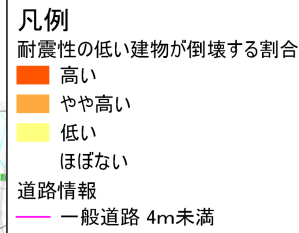
このうち、可能性が高い地域として、下記の地域がある。

- ①紺屋田川に面した地域（品野町1丁目）
- ②水野川と鳥原川が合流する地域（落合町、品野町6丁目・7丁目）

液状化の可能性が高い地域がある。



液状化危険度図



建物(木造および非木造)倒壊危険度図

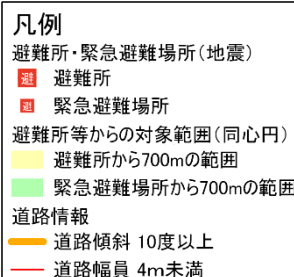
### 【地震時の避難所および緊急避難場所】

下品野連区では、地震時の避難所および緊急避難場所として下品野小学校が指定されている。北丘町、八床町、品野町1~3丁目、窯町などでは、近隣連区の避難所を含めても、地震時の避難所もしくは緊急避難場所までの距離が700m以上離れている。これらの地域では、地震時の避難所への近接性が良くないことを地域住民に周知する必要がある。

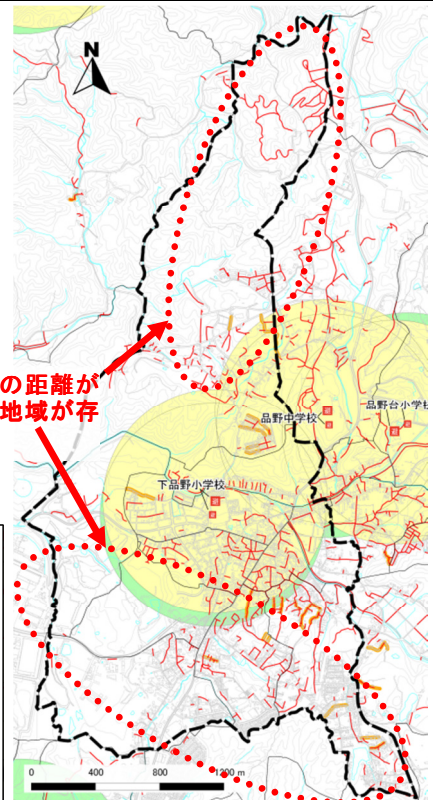
#### 地震時の避難所・緊急避難場所一覧

緊急避難場所	避難所	収容定員(目安)		
		長期	初期	直後
下品野小学校(運動場)	下品野小学校	95人	190人	310人
品野台小学校(運動場) 【品野連区】	品野台小学校 【品野連区】	110人	220人	360人
品野中学校(運動場) 【品野連区】	品野中学校 【品野連区】	290人	575人	935人

※地域防災計画より



避難所までの距離が離れている地域が存在する。



地震時の避難所・緊急避難場所の対象範囲